

大船渡漁港における係船岸壁延伸整備について

1 経緯

令和 3 年 4 月、衛生品質管理の充実強化と水揚増強による水産物の安定供給のため、大船渡漁港における係船岸壁延伸について、大船渡魚市場株式会社をはじめとする関係者から要望書を受理しました。

これを受け、同年 8 月に岩手県知事に要望書を提出したところ、令和 4 年 4 月に水産庁から整備計画が承認され、現在岩手県が整備を進めています。

2 概要

(1) 整備の方針

- ア 産地の競争力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

近年、大型化しているまき網船やサンマ船等の洋上待機時間の削減を図るため、大型船の係留に対応する岸壁及び泊地浚渫、漁港施設用地の整備を行う。
- イ 災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

今後発生が想定される地震・津波に対して漁港機能を維持できるよう当該岸壁の耐震・耐津波対策を行う。

(2) 整備の概要

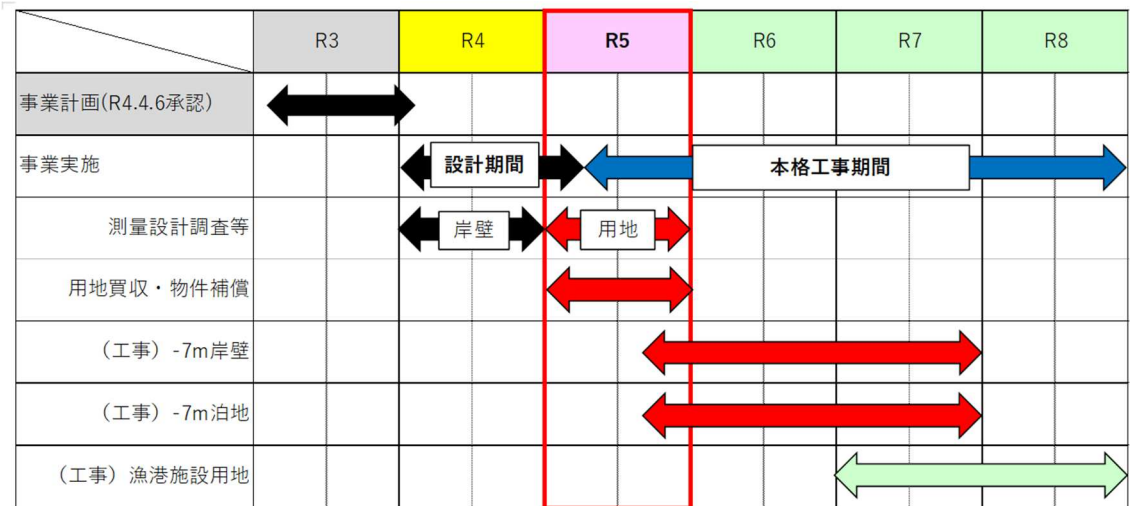
事業名：大船渡地区（大船渡漁港）水産流通基盤整備事業

係留施設　－ 7 m 岸壁（計画延長 135. 0m）

水域施設　－ 7 m 泊地（計画面積 4, 340 m²）

漁港用地　漁港施設用地（計画面積 2, 100 m²）

(3) 整備スケジュール（予定）



(4) 整備箇所



(5) 完成イメージ図

